

だれでも食べなければ生きていけません。そして食べることは生涯続きます。しかもその食べ方がその人の健康づくりのカギを握っています。ですから、「なにをどれだけ食べたらいいか」を知って実践すれば、「自分だけでなく家族や周囲の人が病気にならないように気を配ることができます。」

今春、本学短期大学部にスペシヤルコースを開設しました。社会人経験者や他大学を卒業後に、栄養学や健康について学ぶ決意をした人のためのコースで、栄養士と栄養教諭の資格がとれます。20歳代から60歳代の四十数名、経営学や心理学、看護学、デザインなどを学んだ学生が集まりました。

栄養学は人々の暮らしと密接にかかわっていますから、彼女たちの幅広い知識や経験が問題解決の

大きな力になります。経営学の手法が背景にあれば、給食管理や新規起業の場で力を発揮することができます。食には心の問題が大きく関与しますが心理学の素地があれば有効な対応ができます。幅広い知識を持った栄養士がともに手を携えて人々の健康増進のために力を注ぐことを期待しています。

幅広い知識と 背景を持つ栄養士が 人々の健康を支えます

日々の
暮らしに

香川芳子

女子栄養大学学長



え/平野こうじ